



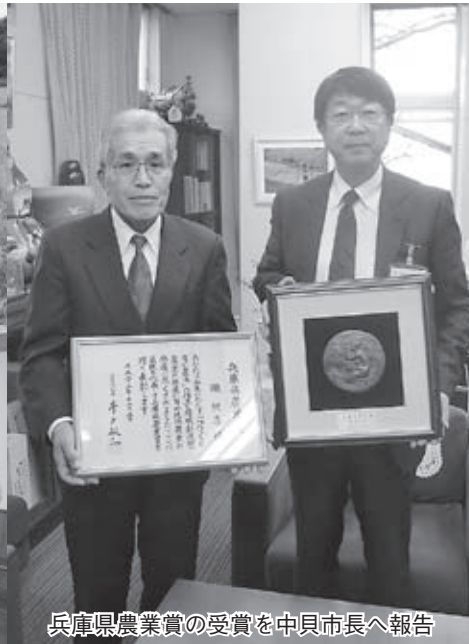
コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



コウノトリKIDSクラブのメンバーを指導



中国研修団に取組みを説明



兵庫県農業賞の受賞を中貝市長へ報告

コウノトリに選ばれる田んぼ作りを 日々考える元気人

コウノトリと共生する田んぼ作り、米作り、地域づくりを実践し、コウノトリ野生復帰を支える元気な男性を紹介します。

撮 **悦喜**さん(73歳)祥雲寺

安全・安心な米と多様な生きものを同時に育む「コウノトリ育む農法」。平成17年度に命名されたこの農法は、多くの生産者らの努力で年々面積を増やし、本年度は約234ヘクタールにまで広がりました。市内各地にコウノトリの餌となる生きものを育む田んぼが広がっています。

コウノトリ育む農法に当初から取り組み、環境創造型農業の推進に尽力した撮悦喜さんは、平成23年度兵庫県農業賞を受賞しました。

コウノトリとの共生

平成4年、兼業農家を営み区の農会長を務めていた撮さんのところへ、祥雲寺区にコウノトリの郷公園を作る話が舞い込みました。区としてコウノトリとどう共生するかを話し合う「祥雲寺を考える会」を結成。「コウノトリが来るなら農薬は使えん」という話が住民から自然に出てきました」と撮さんは話します。

まず、アイガモ農法などの無農薬栽培に取り組みました。平成9年には「コウノトリの住む郷づくり研究会」を発足し、区の歴史や文化、環境に

ついて考えました。平成14年、祥雲寺区に無農薬・減農薬の米作りに取り組む「コウノトリの郷営農組合」を設立。撮さんが初代会長に就任しました。組合には全23戸が加入

しました。組合には全23戸が加入村づくりを兼ねた組合となりました。「自分たちの田んぼは自分たちで守ろう」という気持ちが一緒になりましたね」と撮さんは話します。そんな撮

さんたちの田んぼに平成14年8月5日、大陸から野生コウノトリ「ハチゴロウ」が飛んできました。「自分たちの無農薬田で餌をついばむ姿を見て取り組んできたことが正しかったと自信が持てました」と笑顔を見せます。平成15年から

は県や市の指導を受けて、田に水を1年中張ることでコウノトリの餌となるカエルや魚などを増やすビオトープ水田や冬期湛水、中干し延期稲作などにも取り組みました。

コウノトリ育む農法の確立

平成17年には「コウノトリ育む農法」の栽培技術を体系化し、平成18年、この農法に取り組む人たちが集まり「コウノトリ育むお米生産部会(事務局・JAたじま)」が設

立され、撮さんが初代会長に就任。部会の仲間とともに栽培面積の拡大、栽培技術の普及促進に奔走しました。

最終評価は「コウノトリが決める」

水田生物の生態系を復活させて害虫や雑草を抑え、安全・安心な米を手に入れる。「コウノトリ育む農法」は、コウノトリも住める豊かな環境づくりにつながっています。この取組みは国内だけでなく、中国や韓国など、近隣の諸外国からも注目され、多くの農業者が視察に訪れています。

「田んぼの良し悪しは、田んぼにすむ生きものが決めてくれる。米の良し悪しは、食べてもらう消費者に決めてもらう方がいい。全体の取組みの評価は、舞い降りてくるコウノトリが決めてくれる」と語る撮さん。コウノトリも住める地域が広がることを願う一方で、コウノトリに選ばれる田んぼでありたいと、努力を続けています。



▲田んぼが恋人の撮さん

広報マンがやってきた!

幼稚園編

27

豊岡ひかり幼稚園 (豊岡)

〈園児17人〉



豊岡ひかり幼稚園は、年に3回、長寿園に通所するおじいちゃん、おばあちゃんとの世代間交流を行っています。3月2日、本年度最後の交流会が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

おじいちゃん、おばあちゃんとの交流

当日は、あいにくの雨でしたが、園児たちは通い慣れた道を一列になって長寿園に向かいます。

長寿園に到着すると、拍手で迎えられます。ステージ上には「ようこそ ひかり幼稚園のみなさん」と書かれた横断幕が掲げられ、歓迎ムード一色です。おじいちゃん、おばあちゃんたちは、毎回この交流会を楽しみにしています。

楽しいひととき

ステージの準備が整うまでの間も友達と「アルプス一万尺」をして遊ぶなど楽しそう。まず、「自己紹介」と「幼稚園に通って楽しかったこと」を一人ずつ発表します。楽しかったことは「草餅会」「雪遊び」「かるた大会」など皆いろいろ。次に園児たちは、元気よく歌を歌ったり、堂々と運動チャレンジ(体操、側転、鉄棒、フラフープ)を披露していきます。



鉄棒(逆上がり)では、うまくできない友達に「○○ちゃん、頑張れー!」と声援を送



り、全員ができるまで頑張りました。そんな一生懸命な園児の姿を見て、おじいちゃん、おばあちゃんからは笑みがこぼれていました。発表後は、一緒にお手玉をしたり、肩たたきをしたりして触れ合いました。

交流を終えた園児は「楽しかった」「おじいちゃんやおばあちゃん」と触れ合えて本当に良かった」などうれしそうに感想を述べていました。最後に、豊岡市シルバー人材センター職員から「本年度は今日で最後となり寂しいです。4月からは小学校で頑張ってください」と励ま

してもらいました。



笑顔の輪

手編みには温もりがあります

あみものサークル(竹野)

あみものサークルは、平成23年6月に設立したまだ新しいサークルです。

会員は約10人で、会費は月千円。基本的に毎月第1・3金曜日の午前9時30分～正午に、竹野地区公民館で活動しています。

代表の別角真奈美さん(竹野町松本)は「以前から竹野地域で編み物のサークルを作りたいという思いがありました。公民館で編み物の公開講座を開き、そこに参加していただいた方に声を掛けて、会を設

立しました」と経緯を話します。

会員は、ストールやコースジュの小物からベストやセーター、カーディガンまでそれぞれ自分の編みたい物をかぎ針や棒針を使って好きなペースで編んでいきます。

活動日は、講師の先生に丁寧に教えていただき、みんな集中して取り組むため、あっという間に時間が過ぎていきます。

別角さんは「手を動かしているとなかなか出来上がらなかったときの達成感や手作りの幸せ感があります。初心者も大歓迎で、多くの方に参加していただき、世間話などをしながらにぎやかに活動していきたいです」と笑顔で話します。

昨年は、竹野地域の文化祭や豊岡市民プラザで作品を展示し、多くの方に見ていただきました。

入会希望・問い合わせは、別角さんまで。☎47-11950



▲会員手作りの夏用ベスト、小物入れ(竹野地域の文化祭で展示)